

ANAホールディングス株式会社 説明会

2019年3月期 第2四半期 決算説明会

代表取締役社長

片野坂 真哉

2018年11月2日



目 次

1. 2018年度 第2四半期決算（概要）

2018年度 第2四半期決算	P. 4
航空事業	P. 5- 7
基本品質の向上	P. 8- 9
2018年度 下期の取り組み	P. 10

2. 2018年度 第2四半期決算（詳細）

業績ハイライト	P. 14
連結決算概要	
経営成績	P. 15
財政状態	P. 16
キャッシュフロー	P. 17
セグメント別実績	P. 18
航空事業	
収入・費用	P. 19
営業利益増減要因	P. 20
国内旅客事業	P. 21-22
国際旅客事業	P. 23-26
国内貨物事業	P. 27
国際貨物事業	P. 28-30
LCC事業	P. 31-32
燃油・為替ヘッジの進捗状況	P. 33
航空事業以外のセグメント	P. 34

3. 補足資料

運用航空機数	P. 36
国際旅客 方面別実績（構成比）	P. 37
国際貨物 方面別実績（構成比）	P. 38

1. 2018年度 第2四半期決算（概要）



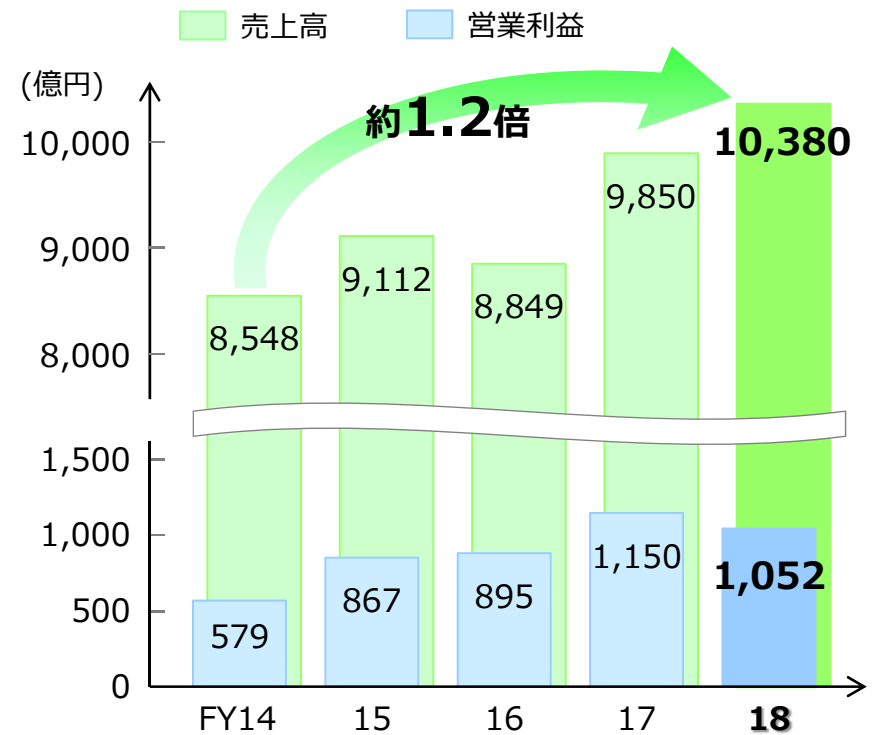
2018年度 第2四半期決算（概要）

経営の基盤固めを推進する中で、上期で過去最高の売上高を更新

1. 連結決算の状況

(億円)	実績	前年差	前年比
売上高	10,380	+530	+5.4%
航空事業	9,158	+504	+5.8%
営業利益	1,052	▲98	▲8.6%
航空事業	1,010	▲81	▲7.5%
営業利益率	10.1%	▲1.5pt	-
経常利益	1,029	▲98	▲8.7%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	737	▲446	▲37.7%
EBITDA	1,819	▲71	▲3.8%

2. 第2四半期累計 売上高・営業利益の推移



▶ ポイント

- 1) 売上高 : 国際線事業（旅客・貨物）がトップラインを牽引
- 2) 営業利益 : 前年同期比では減益ながらも、当初計画を上回って推移

航空事業

中期経営戦略のテーマに則り、好調な需要トレンドを背景に各事業は計画通りに進捗

2018年度 戦略テーマ

上期の進捗



国際旅客

ネットワークの
競争優位性を強化

- 1) 力強い需要基調が継続 (旅客キロ 前年比+6.8%)
- 2) イールド向上の追求 (前年比+4.9%)

国内旅客

安定的な
収益基盤を堅持

- 1) 生産量が減少した中、安定的な需要を確保 (座席利用率 前年差+1.7pt)
- 2) イールドマネジメントを強化 (2Qは単価向上 前年比+1.4%)

国際貨物

収益性の向上を追求

- 1) 需給適合の推進 (フレイター-貨物重量利用率 前年差+5.4pt)
- 2) 値上げによる単価向上 (前年比+21.1%)



LCC

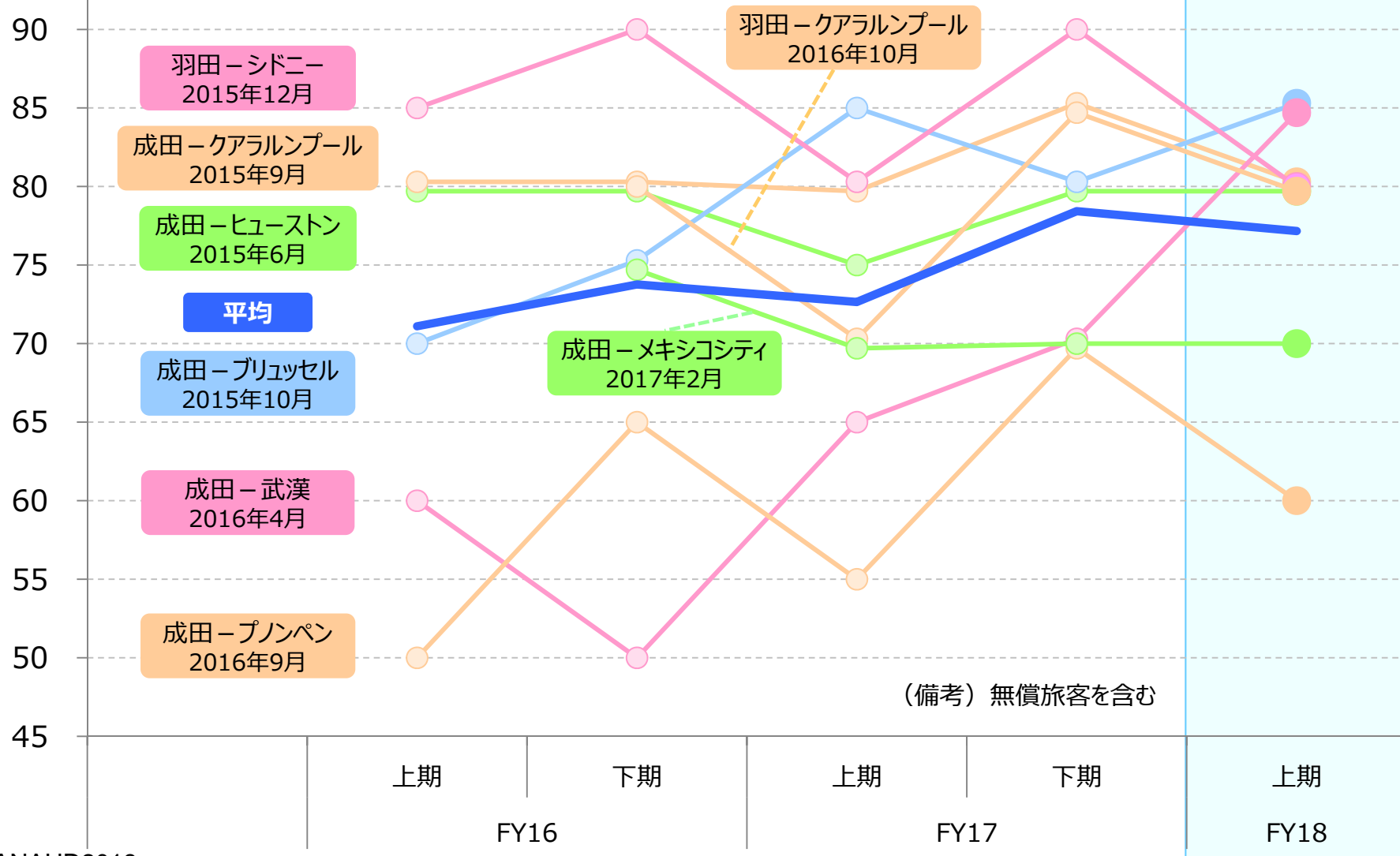
統合を視野に
ネットワークを最適化

- 1) 重複路線の再編 (成田 = 関西線 → Peach運航に集約)
- 2) 新たな路線の開設 (成田 = 石垣線、関西 = 釧路線など)

航空事業

新規就航路線における座席利用率は、就航開始直後から着実に向上

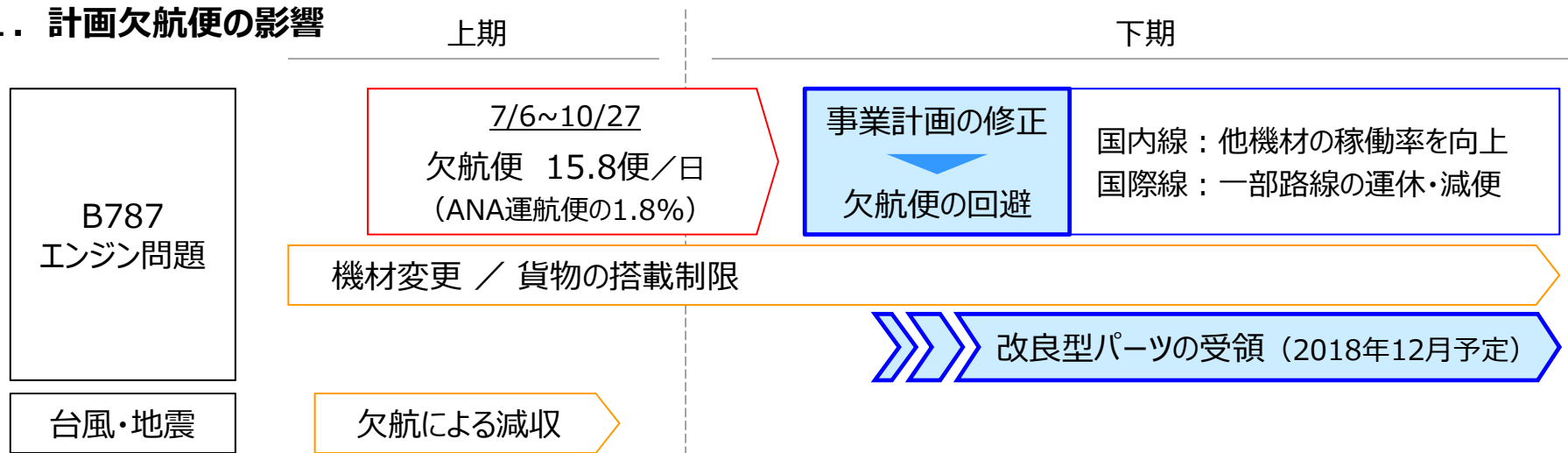
座席利用率 (%)



航空事業

運航イレギュラーに対して適切に対応、生産体制の安定化へ

1. 計画欠航便の影響



2. 生産量への影響 (ANA)

座席キ口		上期	下期
国内旅客	前年比	△ 2.3%	+ 1%
	(当初計画比)	(△ 1.5%)	(+ 1%)
国際旅客	前年比	+ 4.6%	+ 0%
	(当初計画比)	(△ 0.6%)	(△ 4%)

《 対応策 》

影響を
縮小

(国内線) 当初計画並みの生産量
(国際線) ANA前後便等への振替

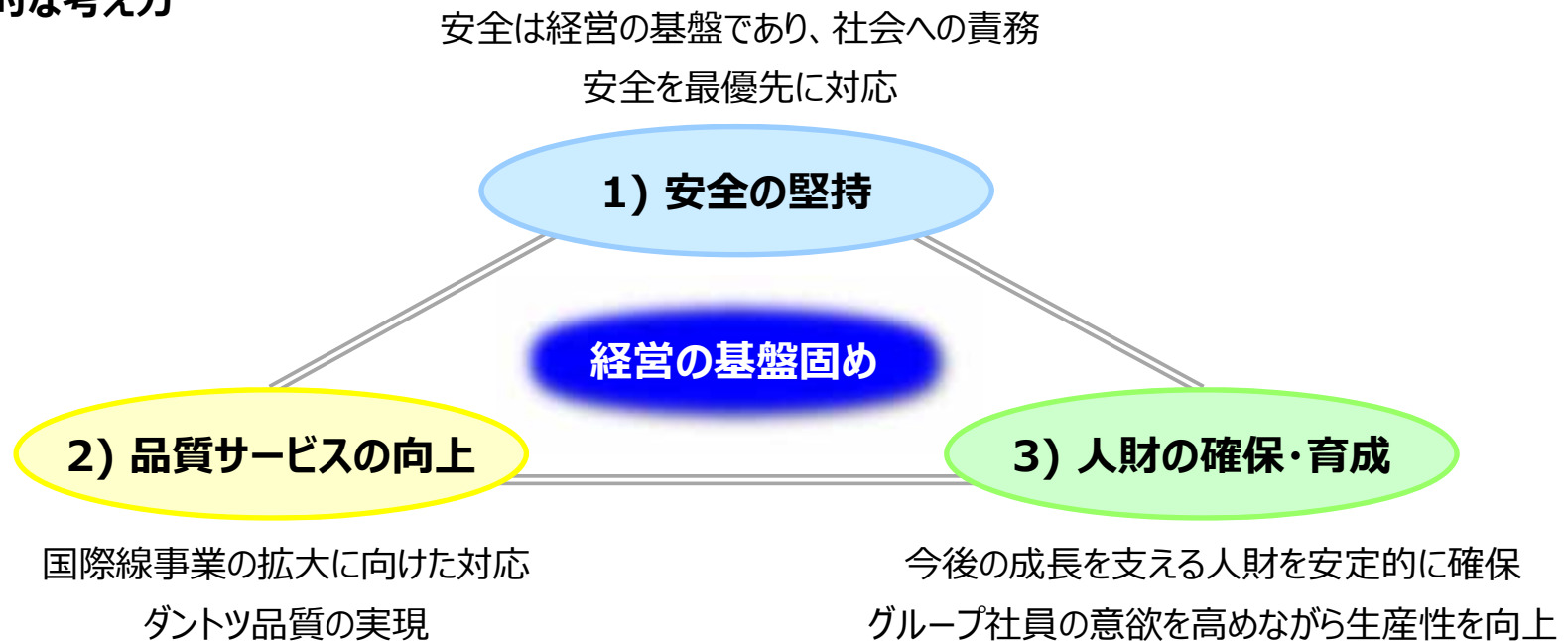
追加の
増収策

更なる需要の獲得
単価・イールドの向上

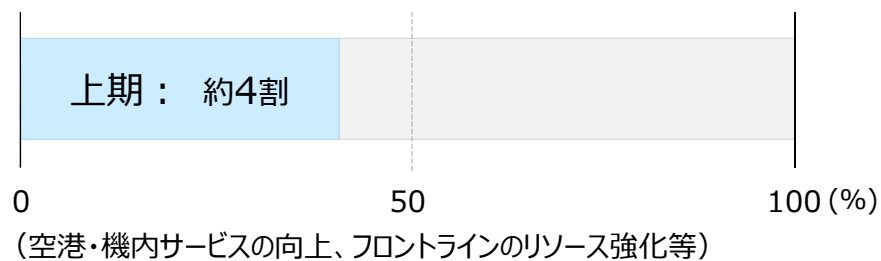
基本品質の向上

中期経営戦略に基づき、「経営の基盤固め」に向けた施策を着実に推進

1. 基本的な考え方



2. 投資・費用の執行状況



2018年度計画
合計140億円

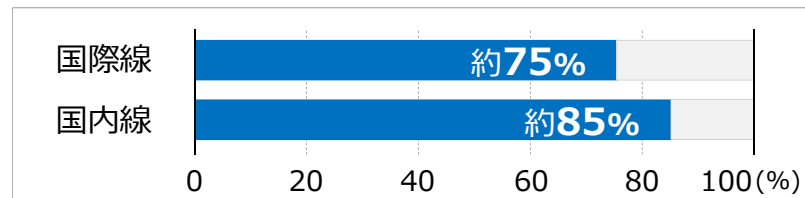
基本品質の向上

1) 安全の堅持

- 1) 整備体制の強化、点検サイクルの短縮
- 2) ICTの活用によるオペレーション品質の向上
 - ① モバイル端末の活用
 - ② 「ふりかえり動画」によるパイロットの技倆向上支援

2) 品質サービスの向上

- 1) 機内Wi-Fiインターネットサービスの導入推進



※2018年9月末現在、設置対象予定の全機材に対する進捗

- 2) ユニバーサルなサービスの提供

- ① 国内空港における施設・設備の整備
- ② ユニバーサル研修の全社員展開

3) 人財の確保・育成

- 1) 今後の成長を支える人財の積極的な採用
 - ① パイロット・客室乗務員の人員拡大
 - ② 空港スタッフを対象とした労働条件の向上
- 2) 品質向上のための教育・訓練の実施
 - ① 総合トレーニングセンターの建設



- 3) Society5.0の推進 (AI・IoTの活用)

- ① 「ANA Baggage Drop」導入空港の拡大
- ② 航空機の移動・牽引業務に関する実証実験の開始



2018年度 下期の取り組み

今年度の当初計画に基づいて戦略を着実に実行、今後の成長ステージへ

1. 事業戦略



- 1) B787エンジン問題への対応
- 2) ネットワークの拡充
・2019年2月 羽田＝ウィーン線 就航



- 3) 統合準備の確実な推進
・機材と人材の移行（バニラエア→Peach）
・バニラエアの経営体制変更

コスト

- 4) 「経営の基盤固め」を計画通りに実行
- 5) ユニットコストのコントロール

2. 財務戦略

- 1) グリーンボンドの発行
 - ① ESGの取り組みに関する認知度の向上
 - ② 中期経営戦略に則った持続的な成長の追求

発行年限	10年
発行額	100億円
発行日	2018年10月24日
資金使途	総合トレーニングセンターの建設資金の一部

3. 2018年度 利益計画・配当計画

(連結営業利益：1,650億円、1株あたり配当金：70円)

1) 上期：計画を上回って進捗	2) 下期：増収トレンドが継続	3) 動向を注視
① 売上高 : 1兆円超 ② 営業利益 : 1,000億円超 ③ 営業利益率 : 10%超	① 需要はグループで拡大 ・「北海道ふっこう割」による需要喚起 ② イールドは計画を上回って推移	① 原油市況の動向 ② エンジンメーカーへの求償対応

Intentionally Left Blank

Intentionally Left Blank

2. 2018年度 第2四半期決算（詳細）



業績ハイライト

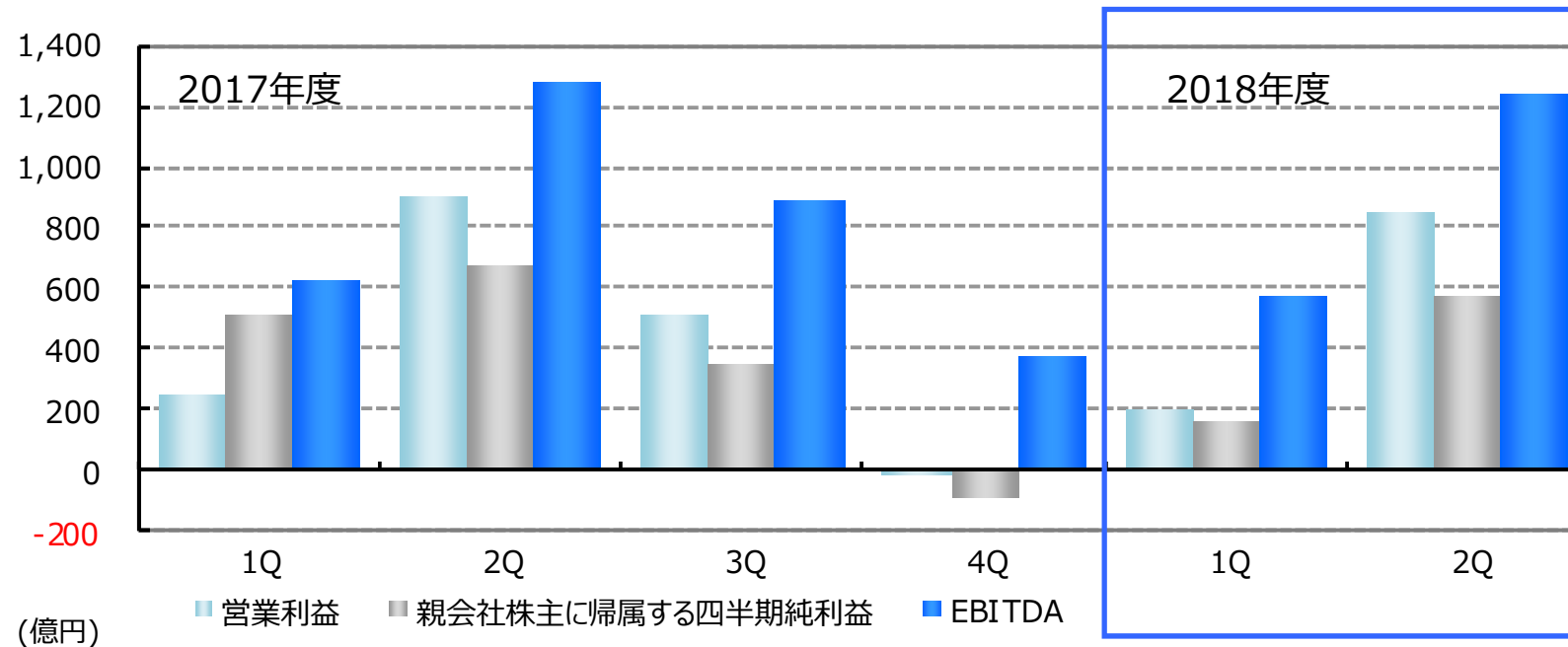
当年度と前年度各四半期の業績比較

【2018年度 第2四半期 累計 (連結)】

- 営業利益 : 1,052億円 (前年同期比 △ 98億円)
- 親会社株主に帰属する四半期純利益 : 737億円 (同 △ 446億円)
- EBITDA : 1,819億円 (同 △ 71億円)

【第2四半期 (7-9月期) (連結)】

- 営業利益 : 851億円
- 親会社株主に帰属する四半期純利益 : 576億円
- EBITDA : 1,243億円



連結決算概要

経営成績	単位：億円	FY2017	FY2018	前年差	FY2018	前年差
		第2四半期累計	第2四半期累計		第2四半期	
売上高		9,850	10,380	+ 530	5,531	+ 198
営業費用		8,699	9,328	+ 628	4,680	+ 243
営業利益		1,150	1,052	△ 98	851	△ 45
営業利益率 (%)		11.7	10.1	△ 1.5pt	15.4	△ 1.4pt
営業外損益		△ 23	△ 22	+ 0	△ 16	+ 0
経常利益		1,127	1,029	△ 98	835	△ 44
特別損益		439	0	△ 439	0	△ 84
親会社株主に帰属する四半期純利益		1,183	737	△ 446	576	△ 96
四半期純利益		1,197	742	△ 455	580	△ 104
その他包括利益		166	434	+ 267	132	+ 12
包括利益		1,364	1,176	△ 187	713	△ 91

連結決算概要

財政状態

単位：億円

	FY2017 期末	FY2018 第2四半期末	前年度 期末差
総資産	25,624	26,266	+ 642
自己資本	9,886	10,762	+ 875
自己資本比率 (%)	38.6	41.0	+ 2.4pt
有利子負債残高	7,983	7,935	△ 48
D/Eレシオ (倍) *	0.8	0.7	△ 0.1
純有利子負債残高 **	4,408	4,512	+ 104

* オフバランスリース債務額 36億円（前年度期末 205億円）を含むD/Eレシオは0.7倍（前年度期末0.8倍）

** 純有利子負債残高 = 有利子負債残高 - （流動資産（現金及び預金 + 有価証券））

連結決算概要

キャッシュフロー

単位：億円

	FY2017 第2四半期累計	FY2018 第2四半期累計	前年差
営業キャッシュフロー	2,065	1,597	△ 467
投資キャッシュフロー	△ 2,108	△ 1,228	+ 880
財務キャッシュフロー	671	△ 408	△ 1,079
現金及び現金同等物の増減額	631	△ 29	△ 660
現金及び現金同等物の期首残高	3,090	2,705	} △ 29
現金及び現金同等物の期末残高	3,722	2,676	
減価償却費	740	767	+ 27
設備投資額（固定資産のみ）	1,968	1,695	△ 273
実質フリーキャッシュフロー （3ヶ月超の定期・譲渡性預金を除く）	+ 398	+ 245	△ 152
EBITDA（営業利益+減価償却費）	1,891	1,819	△ 71
EBITDAマージン(%)	19.2	17.5	△ 1.7pt

連結決算概要

セグメント別実績

単位：億円

	FY2017 第2四半期累計	FY2018 第2四半期累計	前年差	FY2018 第2四半期	前年差	
売上高	航空事業	8,654	9,158	+ 504	4,893	+ 208
	航空関連事業	1,415	1,452	+ 36	752	△ 5
	旅行事業	835	797	△ 38	436	△ 35
	商社事業	691	750	+ 58	381	+ 24
	その他	186	194	+ 7	100	+ 2
	調整額	△ 1,932	△ 1,971	△ 38	△ 1,032	+ 3
	合計（連結）	9,850	10,380	+ 530	5,531	+ 198
営業利益	航空事業	1,092	1,010	△ 81	827	△ 33
	航空関連事業	68	76	+ 7	34	+ 8
	旅行事業	22	6	△ 15	7	△ 8
	商社事業	22	17	△ 4	10	△ 2
	その他	16	12	△ 4	6	△ 4
	調整額	△ 72	△ 72	+ 0	△ 35	△ 5
	合計（連結）	1,150	1,052	△ 98	851	△ 45

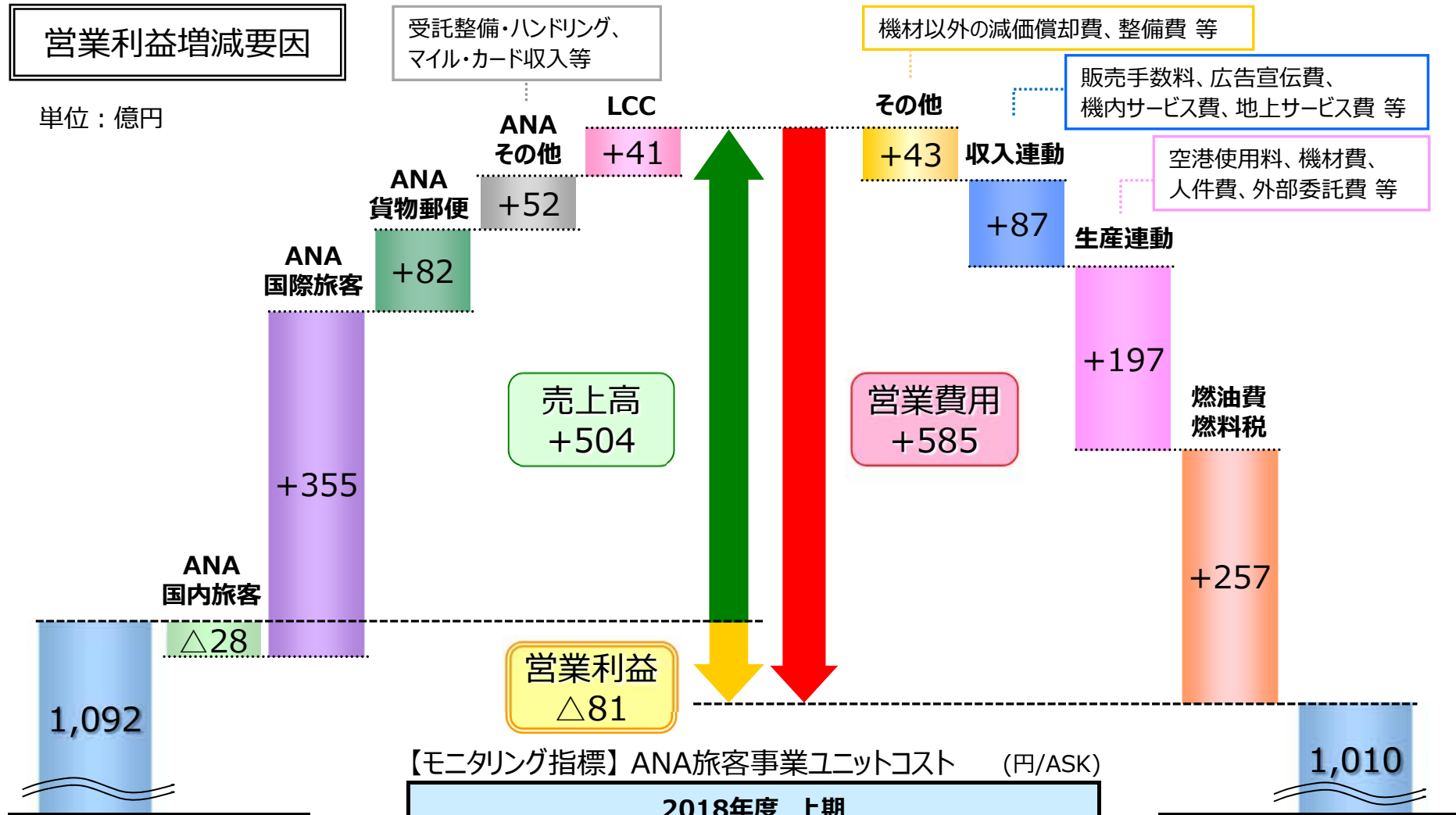
航空事業

収入・費用			FY2017 第2四半期累計	FY2018 第2四半期累計	前年差	FY2018 第2四半期	前年差
		(億円)					
売上高	ANA	国内旅客	3,551	3,523	△ 28	1,954	△ 50
		国際旅客	2,955	3,310	+ 355	1,748	+ 187
		貨物郵便	742	825	+ 82	411	+ 31
		その他	962	1,014	+ 52	507	+ 15
		LCC	442	483	+ 41	272	+ 23
		合計	8,654	9,158	+ 504	4,893	+ 208
営業費用		燃油費・燃料税	1,458	1,715	+ 257	858	+ 127
		空港使用料	619	613	△ 5	310	△ 7
		航空機材賃借費	553	607	+ 54	311	+ 33
		減価償却費	708	735	+ 27	375	+ 18
		整備部品・外注費	654	690	+ 36	319	△ 7
		人件費	988	1,034	+ 45	517	+ 15
		販売費	505	546	+ 41	269	+ 8
		外部委託費	1,094	1,179	+ 85	591	+ 39
		その他	979	1,024	+ 44	512	+ 13
		合計	7,561	8,147	+ 585	4,066	+ 241
営業利益	営業利益	1,092	1,010	△ 81	827	△ 33	
	EBITDA (営業利益+減価償却費)	1,801	1,746	△ 54	1,203	△ 15	
	EBITDAマージン (%)	20.8	19.1	△ 1.7pt	24.6	△ 1.4pt	

航空事業

営業利益増減要因

単位：億円



【モニタリング指標】ANA旅客事業ユニットコスト (円/ASK)

2018年度 上期		
計画	実績	実績 (為替補正)
9.4	9.3	9.3

為替レート(米ドル) 計画:¥110、実績: ¥110.3

航空事業

国内旅客事業（実績）

(ANAブランド)	FY2017 第2四半期累計	FY2018 第2四半期累計	前年比(%)	FY2018 第2四半期	前年比(%)
座席キロ（百万）	30,051	29,372	△ 2.3	14,821	△ 5.2
旅客キロ（百万）	20,481	20,511	+ 0.2	10,842	△ 3.1
旅客数（千人）	22,499	22,340	△ 0.7	11,671	△ 3.9
座席利用率（%）	68.2	69.8	+ 1.7pt*	73.2	+ 1.7pt*
旅客収入（億円）	3,551	3,523	△ 0.8	1,954	△ 2.5
ユニットレベニュー（円） （旅客収入／座席キロ）	11.8	12.0	+ 1.5	13.2	+ 2.9
イールド（円） （旅客収入／旅客キロ）	17.3	17.2	△ 0.9	18.0	+ 0.5
単価（円） （旅客収入／旅客数）	15,785	15,772	△ 0.1	16,747	+ 1.4

* 座席利用率のみ前年差

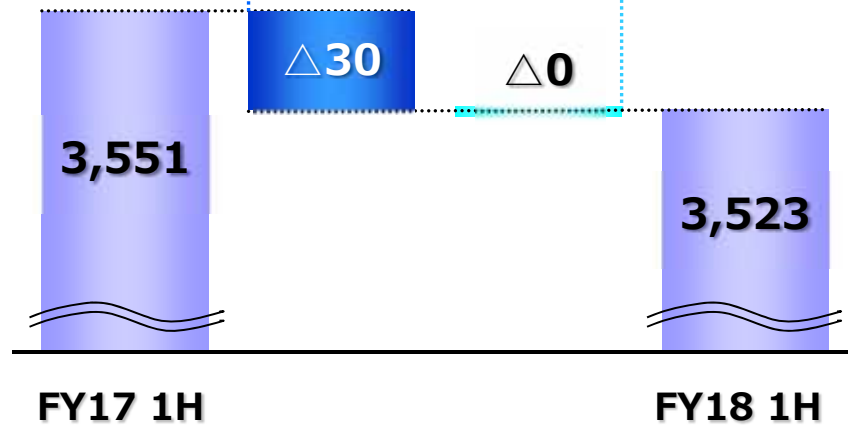
航空事業

国内旅客事業（事業動向）

(ANAブランド)

第2四半期累計 収入増減要因

旅客数要因		単価要因	
需要動向	+10 (+5)	運賃政策	△5 (+0)
営業施策	+30 (△5)	客体構成変化	△15 (△0)
その他（天候など）	△70 (△75)	他社競合・その他	+20 (+25)



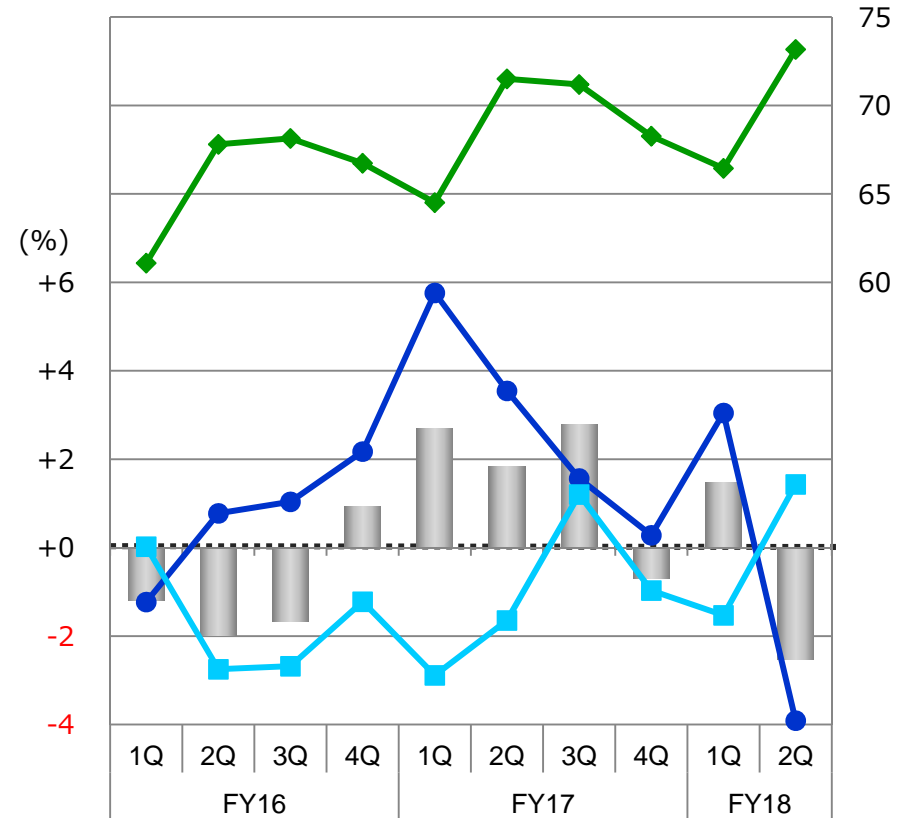
(カッコ内は第2四半期のみの実績値)

単位：億円

四半期別 実績推移

[左] 前年比 ■：旅客収入 ●：旅客数 □：単価

[右] 実績 ◆：座席利用率 (%)



航空事業

国際旅客事業（実績）

(ANAブランド)	FY2017 第2四半期累計	FY2018 第2四半期累計	前年比(%)	FY2018 第2四半期	前年比(%)
座席キロ（百万）	31,852	33,315	+ 4.6	16,706	+ 3.8
旅客キロ（百万）	24,156	25,788	+ 6.8	13,279	+ 5.8
旅客数（千人）	4,761	5,172	+ 8.6	2,663	+ 5.9
座席利用率（%）	75.8	77.4	+ 1.6pt*	79.5	+ 1.5pt*
旅客収入（億円）	2,955	3,310	+ 12.0	1,748	+ 12.0
ユニットレベニュー（円） （旅客収入／座席キロ）	9.3	9.9	+ 7.1	10.5	+ 7.9
イールド（円） （旅客収入／旅客キロ）	12.2	12.8	+ 4.9	13.2	+ 5.9
単価（円） （旅客収入／旅客数）	62,062	64,000	+ 3.1	65,627	+ 5.8

* 座席利用率のみ前年差

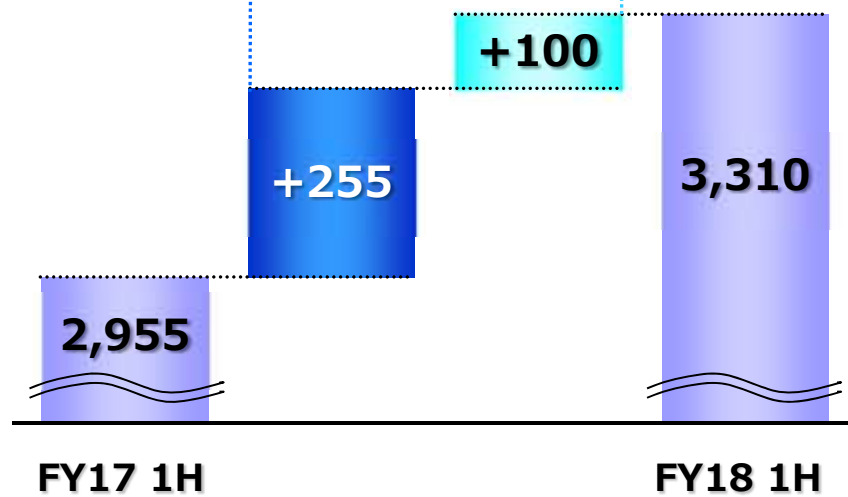
航空事業

国際旅客事業（事業動向）

（ANAブランド）

第2四半期累計 収入増減要因

旅客数要因		単価要因	
生産量	+60 (+30)	イールドマネジメント	+10 (+5)
営業施策	+150 (+65)	客体・路線構成変化	△25 (+25)
FSC	+10 (+5)	為替	+10 (+5)
その他	+35 (△10)	FSC	+105 (+60)

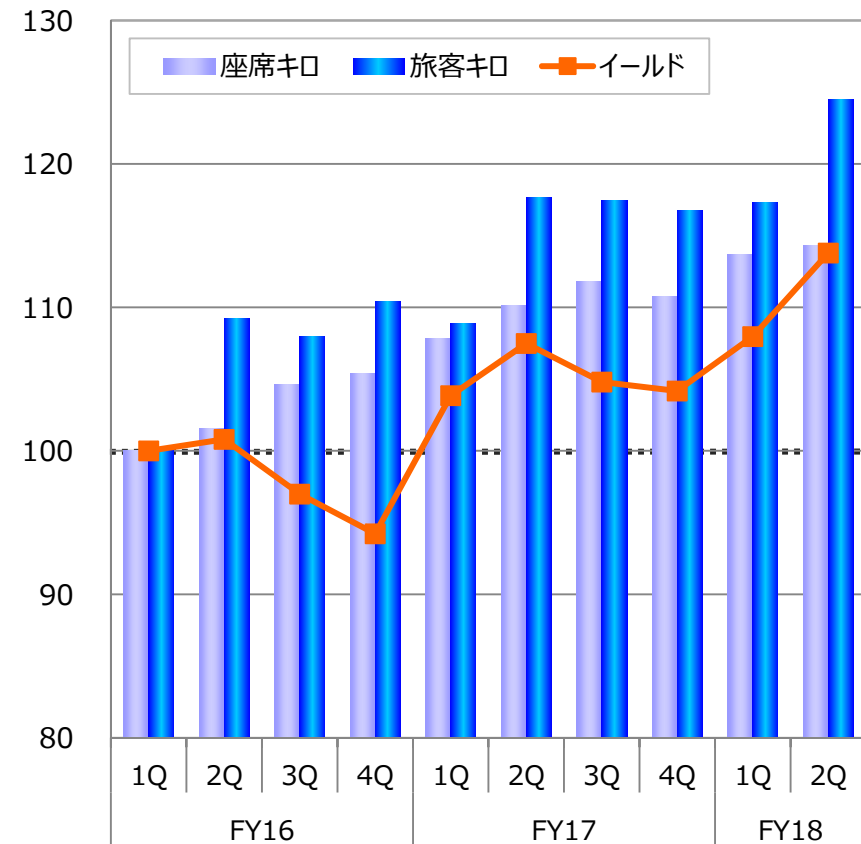


（カッコ内は第2四半期のみの実績値）

単位：億円

四半期別 実績推移

指数（FY16 1Q=100）



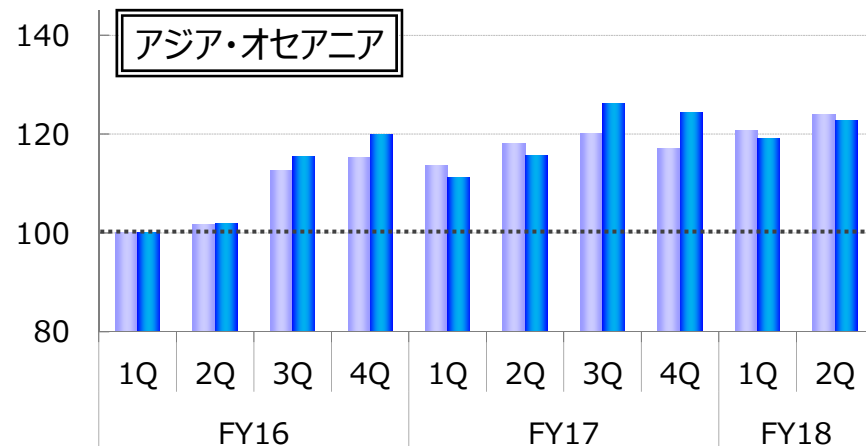
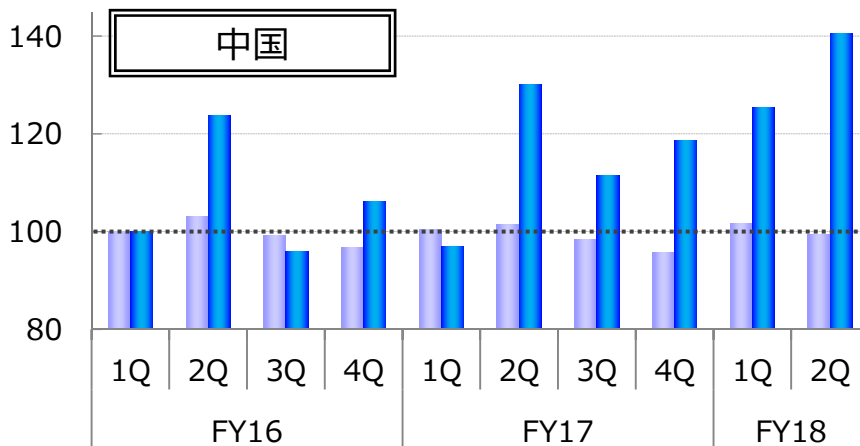
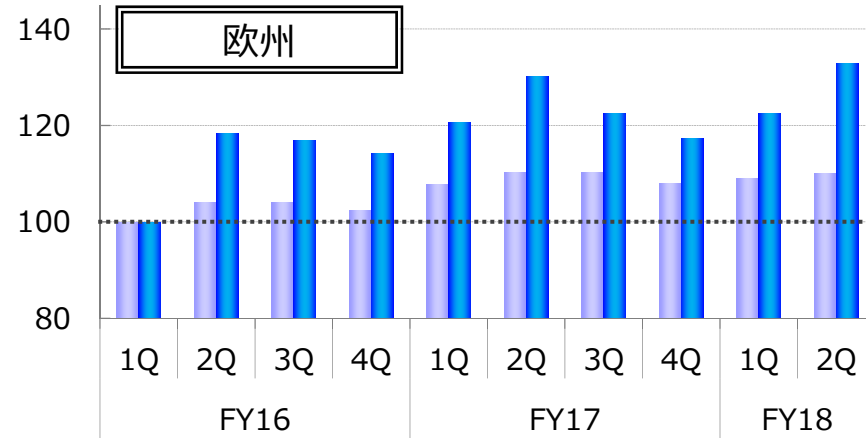
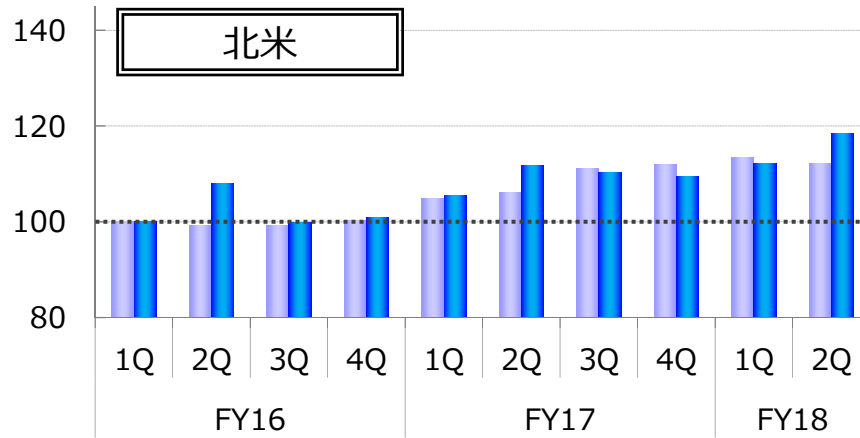
航空事業

国際旅客事業（事業動向）

（ANAブランド）

四半期別・方面別 推移

指数（FY16 1Q=100） ■：座席キ〇 ■：旅客キ〇



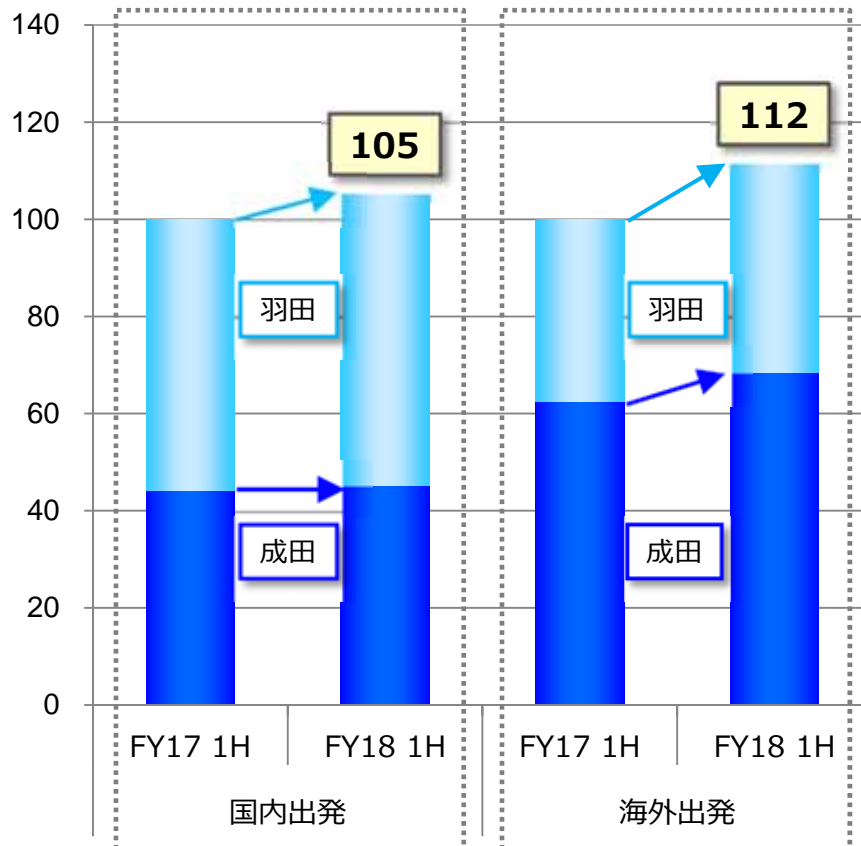
航空事業

国際旅客事業（事業動向）

（ANAブランド）

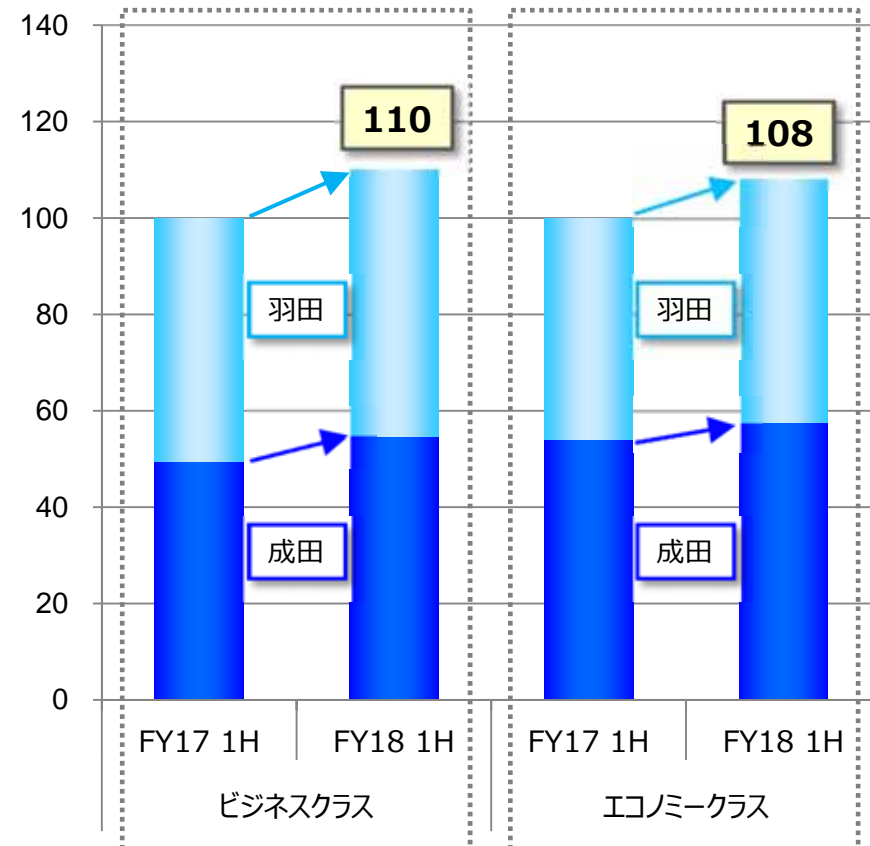
出発地別 実績（前年同期比較）

旅客数 指数
（FY17 1H=100）



クラス別 実績（前年同期比較）

旅客数 指数
（FY17 1H=100）



航空事業

国内貨物事業（実績）

	FY2017 第2四半期累計	FY2018 第2四半期累計	前年比(%)	FY2018 第2四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ（百万）	912	868	△ 4.8	442	△ 9.3
有償貨物トンキロ（百万）	222	205	△ 7.7	104	△ 10.5
貨物輸送重量（千トン）	216	197	△ 8.6	101	△ 11.5
貨物重量利用率（%）	24.4	23.6	△ 0.7pt*	23.7	△ 0.3pt*
貨物収入（億円）	151	140	△ 7.6	69	△ 12.3
ユニットレベニュー（円） （貨物収入／有効貨物トンキロ）	16.6	16.1	△ 3.0	15.8	△ 3.4
イールド（円） （貨物収入／有償貨物トンキロ）	68.3	68.3	+ 0.1	66.4	△ 2.0
重量単価（円/kg） （貨物収入／貨物輸送重量）	70	71	+ 1.1	68	△ 0.9

* 貨物重量利用率のみ前年差

航空事業

国際貨物事業（実績）

	FY2017 第2四半期累計	FY2018 第2四半期累計	前年比(%)	FY2018 第2四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ（百万）	3,391	3,590	+ 5.9	1,792	+ 4.4
有償貨物トンキロ（百万）	2,222	2,253	+ 1.4	1,119	△ 0.5
貨物輸送重量（千トン）	500	483	△ 3.3	237	△ 7.3
貨物重量利用率（%）	65.5	62.8	△ 2.8pt*	62.4	△ 3.1pt*
貨物収入（億円）	548	642	+ 17.1	321	+ 15.2
ユニットレベニュー（円） （貨物収入／有効貨物トンキロ）	16.2	17.9	+ 10.6	18.0	+ 10.4
イールド（円） （貨物収入／有償貨物トンキロ）	24.7	28.5	+ 15.5	28.8	+ 15.8
重量単価（円/kg） （貨物収入／貨物輸送重量）	110	133	+ 21.1	135	+ 24.4

* 貨物重量利用率のみ前年差

航空事業

【参考】国際フレighter（実績）

本表のデータは、P.28記載実績の内数

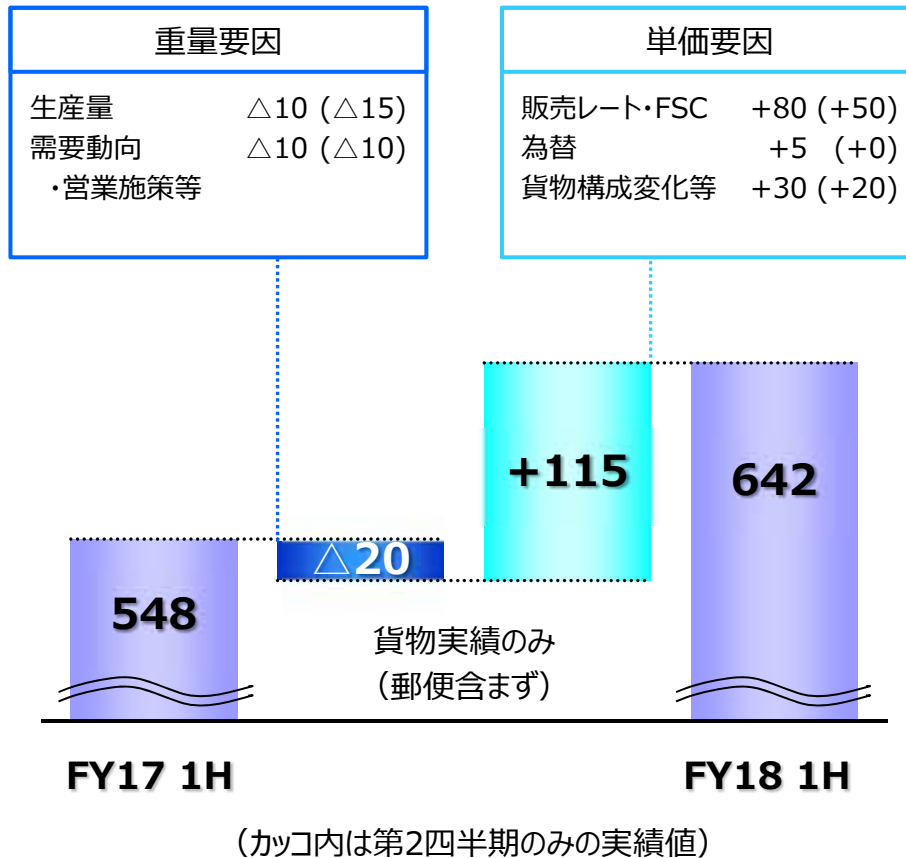
	FY2017 第2四半期累計	FY2018 第2四半期累計	前年比(%)	FY2018 第2四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ（百万）	541	607	+ 12.0	299	+ 8.8
有償貨物トンキロ（百万）	347	422	+ 21.5	206	+ 15.1
貨物輸送重量（千トン）	189	177	△ 6.0	84	△ 14.2
貨物重量利用率（%）	64.2	69.6	+ 5.4pt*	68.8	+ 3.7pt*
貨物収入（億円）	137	182	+ 33.3	90	+ 28.2
ユニットレベニュー（円） （貨物収入／有効貨物トンキロ）	25.3	30.1	+ 19.0	30.2	+ 17.8
イールド（円） （貨物収入／有償貨物トンキロ）	39.5	43.3	+ 9.7	43.9	+ 11.4
重量単価（円/kg） （貨物収入／貨物輸送重量）	72	103	+ 41.8	107	+ 49.4

* 貨物重量利用率のみ前年差

航空事業

国際貨物事業（事業動向）

第2四半期累計 収入増減要因

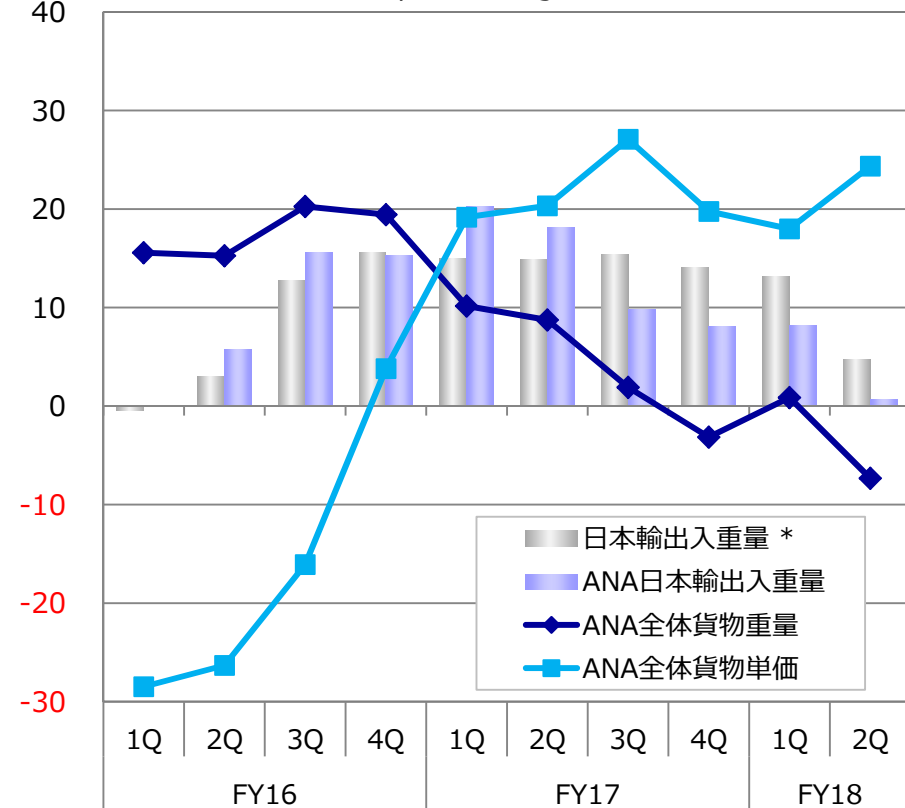


単位：億円

四半期別 実績推移

前年比 (%)

* Japan Aircargo Forwarders Association



FY16の前年比については、販売手数料の廃止による影響を除いた実質的な単価で算出

航空事業

LCC事業（実績）

	FY2017 第2四半期累計	FY2018 第2四半期累計	前年比(%)	FY2018 第2四半期	前年比(%)
(Peach Aviation・バニラエア 合計)					
座席キロ (百万)	5,842	6,000	+ 2.7	3,052	+ 1.4
旅客キロ (百万)	5,111	5,228	+ 2.3	2,681	△ 0.4
旅客数 (千人)	3,885	4,067	+ 4.7	2,069	+ 1.1
座席利用率 (%)	87.5	87.1	△ 0.3pt*	87.8	△ 1.6pt*
売上高 (億円) **	442	483	+ 9.5	272	+ 9.6
ユニットレベニュー (円) (売上高/座席キロ)	7.6	8.1	+ 6.6	8.9	+ 8.1
イールド (円) (売上高/旅客キロ)	8.7	9.3	+ 7.0	10.1	+ 10.1
単価 (円) (売上高/旅客数)	11,378	11,898	+ 4.6	13,144	+ 8.5

* 座席利用率のみ前年差

** 売上高に付帯収入を含む

航空事業

Peach Aviation 輸送実績

(国内線・国際線合計)	FY2017 第2四半期累計	FY2018 第2四半期累計	前年比(%)	FY2018 第2四半期	前年比(%)
座席キ〇 (百万)	3,326	3,618	+ 8.8	1,804	+ 5.3
旅客キ〇 (百万)	2,923	3,179	+ 8.8	1,581	+ 2.6
旅客数 (千人)	2,507	2,711	+ 8.1	1,345	+ 1.9
座席利用率 (%)	87.9	87.9	△ 0.0pt*	87.6	△ 2.3pt*

バニラエア 輸送実績

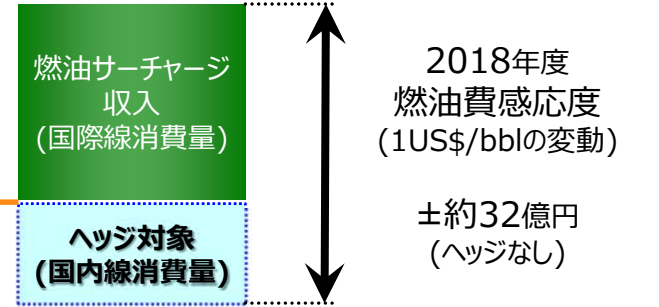
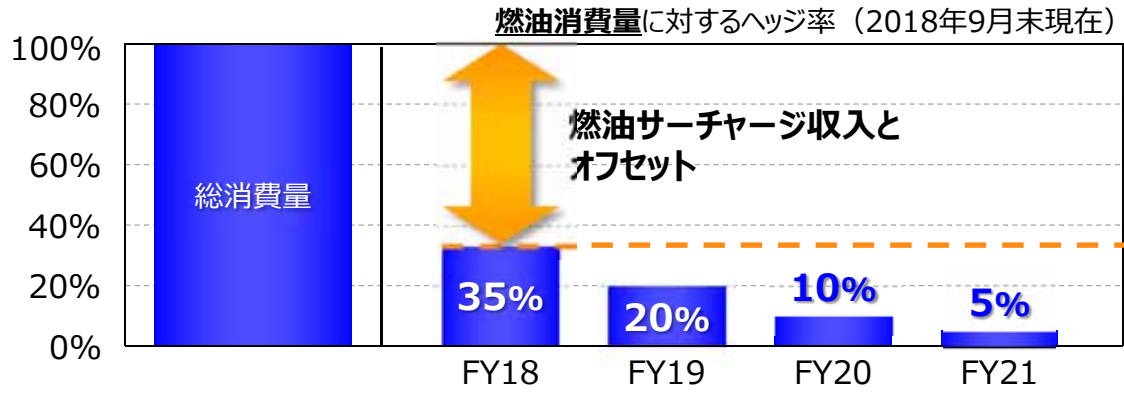
(国内線・国際線合計)	FY2017 第2四半期累計	FY2018 第2四半期累計	前年比(%)	FY2018 第2四半期	前年比(%)
座席キ〇 (百万)	2,516	2,381	△ 5.4	1,248	△ 3.7
旅客キ〇 (百万)	2,187	2,048	△ 6.3	1,100	△ 4.5
旅客数 (千人)	1,378	1,356	△ 1.6	723	△ 0.4
座席利用率 (%)	86.9	86.0	△ 0.9pt*	88.2	△ 0.7pt*

* 座席利用率のみ前年差

燃油・為替ヘッジの進捗状況 (ANAブランド)

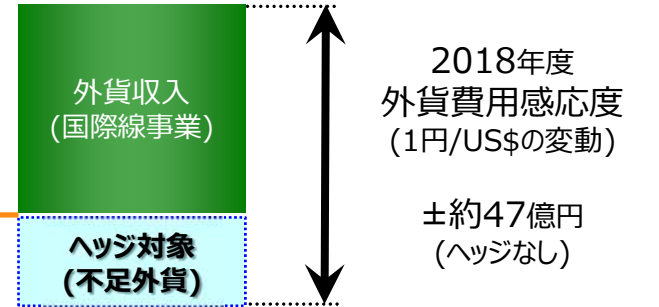
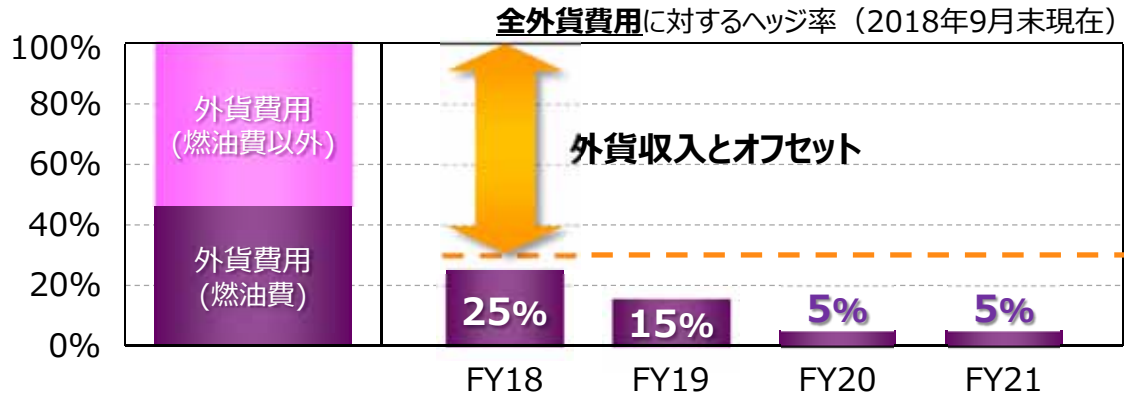
- 1. 燃油ヘッジ 基本方針**
- 1) 国内線消費量を対象にヘッジ (3年前から取引開始)
 - 2) 国際線消費量は原則としてヘッジ対象外 (燃油サーチャージ収入で対応)

(US\$/bbl)	FY18 1H実績	FY18 前提
ドバイ原油	73.2	62
シンガポールケロシン	88.0	75



- 2. 為替ヘッジ 基本方針**
- 1) 不足する外貨量を対象にヘッジ (3年前から取引開始)

(円/US\$)	FY18 1H実績	FY18前提
ドル円レート	110.3	110



航空事業以外のセグメント

セグメント別実績	航空関連事業			旅行事業		
	FY2017 第2四半期累計	FY2018 第2四半期累計	前年差	FY2017 第2四半期累計	FY2018 第2四半期累計	前年差
単位：億円						
売上高	1,415	1,452	+ 36	835	797	△ 38
営業利益	68	76	+ 7	22	6	△ 15
減価償却費	23	22	△ 1	1	2	+ 1
EBITDA (営業利益+減価償却費)	92	98	+ 6	24	9	△ 14
EBITDAマージン(%)	6.5	6.8	+ 0.3pt	2.9	1.2	△ 1.7pt
	商社事業			その他		
	FY2017 第2四半期累計	FY2018 第2四半期累計	前年差	FY2017 第2四半期累計	FY2018 第2四半期累計	前年差
売上高	691	750	+ 58	186	194	+ 7
営業利益	22	17	△ 4	16	12	△ 4
減価償却費	6	6	+ 0	1	1	△ 0
EBITDA (営業利益+減価償却費)	28	24	△ 4	17	13	△ 4
EBITDAマージン(%)	4.1	3.2	△ 0.9pt	9.6	6.9	△ 2.7pt

3. 補足資料



補足資料

運用航空機数	FY2017 期末	FY2018 第2四半期末	前年度 期末差	保有機数	リース機数
Boeing 777-300/-300ER	29	29	-	26	3
Boeing 777-200/-200ER	21	21	-	17	4
Boeing 787-9	28	29	+ 1	26	3
Boeing 787-8	36	36	-	31	5
Boeing 767-300/-300ER	34	34	-	23	11
Boeing 767-300F/-300BCF	12	12	-	8	4
Airbus A321-200neo	2	8	+ 6	-	8
Airbus A321-200	4	4	-	-	4
Airbus A320-200neo	3	6	+ 3	6	-
Airbus A320-200	7	6	△ 1	6	-
Boeing 737-800	36	38	+ 2	24	14
Boeing 737-700	7	7	-	7	-
Boeing 737-500	14	12	△ 2	12	-
Bombardier DHC-8-400	24	24	-	24	-
ANA 計	257	266	+ 9	210	56
Airbus A320-200	15	15	-	-	15
Airbus A320-200	20	21	+ 1	-	21
ANAグループ計	292	302	+ 10	210	92

補足資料

国際旅客 方面別実績（構成比）					
(ANAブランド)		FY2018 第2四半期累計 構成比		FY2018 第2四半期 構成比	
		前年差		前年差	
旅客収入	北米	30.7	△ 0.6	30.4	△ 0.2
	欧州	19.8	△ 0.6	19.8	△ 0.6
	中国	15.5	+ 1.8	16.3	+ 1.3
	アジア・オセアニア	29.0	△ 0.6	28.1	△ 0.5
	リゾート	5.0	+ 0.0	5.3	△ 0.0
座席キロ	北米	33.4	+ 0.7	33.1	+ 0.6
	欧州	15.5	△ 0.6	15.5	△ 0.6
	中国	10.5	△ 0.5	10.4	△ 0.6
	アジア・オセアニア	35.6	+ 0.3	35.9	+ 0.4
	リゾート	5.0	+ 0.1	5.0	+ 0.2
旅客キロ	北米	32.9	△ 0.2	32.9	+ 0.0
	欧州	16.4	△ 0.8	16.6	△ 0.6
	中国	10.8	+ 1.0	11.1	+ 0.2
	アジア・オセアニア	34.3	△ 0.1	33.8	+ 0.1
	リゾート	5.5	+ 0.1	5.6	+ 0.3

補足資料

国際貨物 方面別実績（構成比）

		FY2018 第2四半期累計 構成比	前年差	FY2018 第2四半期 構成比	前年差
貨物収入	北米	34.6	+ 3.6	34.6	+ 4.2
	欧州	14.6	△ 1.4	14.8	△ 1.1
	中国	23.5	△ 1.0	23.6	△ 1.1
	アジア・オセアニア	23.6	△ 0.2	23.7	△ 0.5
	その他	3.6	△ 1.0	3.3	△ 1.5
有効貨物 トンキロ	北米	40.9	+ 3.9	40.7	+ 3.9
	欧州	15.2	△ 0.8	15.3	△ 0.7
	中国	15.0	△ 1.3	14.8	△ 1.5
	アジア・オセアニア	26.9	△ 0.9	27.4	△ 0.7
	その他	1.9	△ 0.8	1.7	△ 1.0
有償貨物 トンキロ	北米	41.8	+ 4.7	41.3	+ 5.1
	欧州	17.3	△ 3.2	17.8	△ 2.8
	中国	13.4	△ 0.7	13.4	△ 0.9
	アジア・オセアニア	25.5	+ 0.1	25.6	△ 0.4
	その他	2.1	△ 0.8	1.8	△ 1.1

グループ経営理念

安心と信頼を基礎に、世界をつなぐ心の翼で夢にあふれる未来に貢献します

グループ安全理念

安全は経営の基盤であり社会への責務である
 私たちはお互いの理解と信頼のもと確かなしくみで安全を高めていきます
 私たちは一人ひとりの責任ある誠実な行動により安全を追求します

グループ経営ビジョン

ANAグループは、お客様満足と価値創造で
 世界のリーディングエアライングループを目指します

グループ行動指針 (ANA's Way)

私たちは「あんしん、あったか、あかるく元気！」に、次のように行動します。

1. 安全 (Safety)
安全こそ経営の基盤、守り続けます。
2. お客様視点 (Customer Orientation)
常にお客様の視点に立って、最高の価値を生み出します。
3. 社会への責任 (Social Responsibility)
誠実かつ公正に、より良い社会に貢献します。
4. チームスピリット (Team Spirit)
多様性を活かし、真摯に議論し一致して行動します。
5. 努力と挑戦 (Endeavor)
グローバルな視野を持って、ひたむきに努力し枠を超えて挑戦します。

免責事項

当資料には、弊社の現在の計画、見積り、戦略、確信に基づく見通しについての記述がありますが、歴史的な事実でないものは、全て将来の業績に関わる見通しです。これらは現在入手可能な情報から得られた弊社の判断及び仮説に基づいています。

弊社グループの主要事業である航空事業には、空港使用料、航空機燃料税等、弊社の経営努力では管理不可能な公的負担コストが伴います。また、弊社が事業活動を行っている市場は状況変化が激しく、技術、需要、価格、経済環境の動向、外国為替レートの変動、その他多くの要因により急激な変化が発生する可能性があります。これらのリスクと不確実性のために、将来における弊社の業績は当資料に記述された内容と大きく異なる可能性があります。従って、弊社が設定した目標は、全て実現することを保証するものではありません。

当資料はホームページでもご覧いただけます。

<http://www.ana.co.jp/group/investors>

株主・投資家情報 → I R 資料室 → 決算説明会資料

ANAホールディングス(株) グループ経理・財務室 財務企画・IR部

Eメール : ir@anahd.co.jp